

平成十一年度「あおぐも」原稿（の原稿）

平成十一年一月十二日

前期広報専門委員長 若林 未来

この原稿（の原稿）は、青雲への寄稿にあたって配布された紙に下書きしていたが、中々良いものができず、何度も消すうちに汚くなっていたため、已む無く電子下書きしたものである。なお、これもそう良いとは言えない。

第一案の後、実際に提出した原稿に写したものと続く。こう短く字数制限されると書きにくい、まあ仕方がない。

四月に広報専門委員長に任命されてから本当にあつと
いう間に半年が過ぎ、後期に引継ぎ、そしてこうして
「あおぐも」の原稿を書いています。半年間、委員会の
ために、そして生徒会のために、自分は一体どれだけの
ことができただろうか、そう振り返ってみると、まだま
だだなあと感じています。

前期に行った目立ったことと言えば、春季総体に向け
た運動部部長へのインタビュ―くらいですが、年間計画

ミレニアム

には千年紀を祝って「さよなら一九九九年スペシャル」
や「二千年特集」をいれてみました。多分最初で最後で
あろうこの企画が、今順調に進んでいることを嬉しく思

います。

何もかもが初めての経験でしたが、こうして無事にその職務を果たせた(?)のは専門委員や他の生徒会役員の皆さん、顧問の先生、そしてスピーカーの向こうで放送を支えてくださった全校の皆さんのおかげです。どうもありがとうございます。

四月に専門委員長に任命されてから、あつという間に半年が過ぎ、後期に引継ぎ、そしてこうして青雲の原稿を書いていきます。半年間委員会のために自分は一体どれだけのことができただろうかと振り返ると首を捻ってしまいますが、やるだけのことはやったと思っています。

前期に行った目立った活動と言えば運動部部长インタビューくらいです。しかし、聞く人の立場に立った放送の見直しや放送室の整頓なども行ってきました。地味ではありますが、とても大切なことだと思います。

校内放送というのは聞く人がいなければ成り立ちません。みなさん、朝と昼には喋りながらも放送に耳を傾

けてみて下さい。